

(その三)

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 市川工場
------------	--------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 9	3 2	4 9	5 1	5 2					

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策1：*ベンゼンの使用を廃止した。
対策2：*蒸留装置#2300のコールドトラップの位置の見直し。(済み) *蒸留装置#3400の第2コンデンサー設置。(ペーパーの削減)(済み) *3系チラー装置の負荷の見直し。(負荷の分散を計画中：現状調査)(済み) *蒸留装置の第二凝縮器(アフターコンデンサー)にコールドとラップを2基増設し、 VOCをより効率よく捕捉するようにした。(済み)
対策3：*屋外タンクのドレンポット取り付け。 *TK-623タンクの遮温塗装。(済み) *TK-622タンクについても遮温塗装を行った。(済み) *屋外タンクにペーパーリターン配管を設置した。(済み)
対策4：屋外タンクのブリーザーバルブ及びエステル中和釜のベントから排出されるガスを吸着除去するため、遊休としていたPSAを再稼動した。(済み)
対策5：アルデヒド製造時のオフガス対策としてディップ式吸収塔を設置した。(済み) *目標年度(平成22年度)の使用量、排出等の量を変更しました。 理由；計画年度(平成22年度)の使用量、排出等の量について、原料は調達部、生産量は生産管理部が立てた計画を元に算出した値です。この為、目標年度(平成22年度)の使用量、排出等の量を変更しました。 *平成23年度の使用量が前年度に比べて減っているのは、現在、東庄町に新工場を建設中で本年度中の稼動を予定している為、市川工場の生産計画が若干少なくなっている為です。 また、排出等の量が目標年度と同じなのは、新工場の稼動予定が延びた時には市川工場の使用量が計画値を上回る事が予測される為、排出等の量は目標年度と同じ量に設定した。

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 9	3 2	4 9	5 1	5 2					